

執筆者一覧

- 栗屋 仁美 比治山大学短期大学部准教授 [26]
飯塚 順一 湘北短期大学准教授 [98]
池田 一生 福岡女学院大学・短期大学部非常勤講師 [106]
江藤智佐子 筑紫女学院大学短期大学部特任講師 [29,75,176]
大西 恵子 国際フランスエステティック学院代々木校講師 [135]
大羽 美裕 株式会社日本航空インターナショナル [78]
岡田小夜子 高崎商科大学短期大学部教授 [67,89]
岡野 網枝 金城大学短期大学部教授 [163]
風戸 修子 自由が丘産能短期大学准教授 [60]
喜多 朋子 早稲田ワーキングスクール講師 [42]
串田 敏美 早稲田ワーキングスクール講師/自由が丘産能短期大学兼任教員 [110]
小松 由美 福島学院大学専任講師 [8,140]
島田 眞美 日本橋学館大学准教授 [145]
清水たま子 愛知江南短期大学教授 [49]
朱宮 裕子 日本秘書クラブ東海代表 [122]
瀧崎 優佳 愛知大学、豊橋創造大学、中部ビューティ・デザインカレッジ非常勤講師 [85]
武田 秀子 総合コミュニケーションセンター代表/諏訪東京理科大学非常勤講師 [125]
常松 玲子 広島国際大学准教授 [63]
徳久 晶子 麻生情報ビジネス専門学校広報部課長代理 [32]
戸田 昭直 浜松学院大学教授 [54,119]
富田 真也 中部コンピュータ・パティシエ・保育専門学校教務部 [95]
中村 健壽 川崎医療福祉大学教授 [148,155,176]
西村この実 株式会社ラ・デタント代表取締役 [128]
東 伸之 専門学校西日本アカデミー副校長 [167]
藤田 利久 埼玉純真短期大学教授 [45,160]
藤村やよい 久留米信愛女学院短期大学准教授 [71]
藤原 由美 自由が丘産能短期大学専任講師 [35]
堀田 祐資 愛知県立杏和高等学校教諭 [115]
水口美知子 名古屋経済大学短期大学部准教授 [38,176]
宮本トシコ 産業能率大学、自由が丘産能短期大学、明星大学非常勤講師 [92,103]
盛 洋子 株式会社オレンデファーム代表取締役 [16]
山田 敏世 有限会社クロスポイント代表取締役 [57,132]

(敬称略・五十音順、名前の後の[数字]は掲載ページ。本文中は順不同)

見本

はじめに

本書は、ビジネス実務教育においてワーク形式の授業を効果的に行うための、各ステップでの実践事例をまとめたものです。原文は『秘書教育研究14・15号』（日本秘書教育学会）に「『ワーク指導のワザ』事例集Ⅰ・Ⅱ」として掲載されたものであり、32名の先生方に寄稿いただいています。

ビジネス実務教育においてワーク形式の授業は、今では欠かせないものとなっています。しかしながら、ワーク形式の授業を進めるにあたっての方法は未だ確立されているとはいえず、それだけにどの先生も、どのように進めたらよいか、どのように学生・生徒の参加意欲を高めたらよいかなど、多くの面で挑戦や試行錯誤が続いています。ワークを効果的に進めるためのノウハウや工夫は多くの先生方が待望されているところであり、それだけに32名の先生方が公開された40の実践事例は非常に貴重なものであり、参考になるものでしょう。

本書のもう一つの意義は、先生方それぞれの授業の形式や内容、工夫を進んで公開していただけたことです。巻末の座談会でも言及されていますが、ビジネス実務教育のような教育体系が完全に確立されていない分野において教育水準を高めるためには、先生方個々の教育内容や技法を孤立させることなく、積極的に交流を図り切磋琢磨を図る必要があるでしょう。このことは多くの先生が指摘されているところでもあります。交流の形式はさまざまにあるでしょうが、本書のような形式はその第一歩となるものであり、これにより、さらに多くの工夫と改良が続き、ワーク形式の授業、さらにはビジネス実務教育全般の教育レベルの向上につながると確信しています。

貴重なノウハウをお寄せいただいた32名の先生方に改めてお礼を申し上げます。

目次

はじめに3

第1章 なぜ授業にワークを取り入れるのか

- ・「できる」ことの喜びを実感させて社会に送り出したい8
- ・「ひと褒め、ひとアドバイス」がワザの極意16

第2章 効果的なワーク指導のワザ

1 授業の導入

- ・時に強制力を発動しつつ楽しさを演出する26
- ・ウォーミングアップはアイスブレイキング・ゲームで！29
- ・「最初の5分」で生徒のモチベーションを上げる32
- ・じっくりと緻密に行う授業の土台作り35
- ・学生をのせるために観察力を磨き、ワザを磨く38
- ・講師が情熱を持って語って、見せる42

2 グループの作り方

- ・段階を踏んでレベルを上げていく45
- ・強いリーダーを中心とした仮想組織を作る49
- ・ワークの目的に応じ適正規模のグループを編成する54
- ・ワークの内容によってグループ作りは変わる57
- ・アイスブレイクを組み込んだグループ分け60
- ・グループ編成はグループワークの要63

3 個別ワークの進め方

- ・「PDCAを回す」グループワークとプレゼンテーション67
- ・学生の好奇心を喚起する「起業方式」71
- ・実習後の“気づき”を表現する75
 - パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式の報告会
- ・ワークとツールを駆使し、最大限に効果を上げる78
- ・ロールプレイングでは具体的な場面設定が大切である85
- ・受命と報告のロールプレイングの間に「業務の遂行」を付加する89



- ・コミュニケーション力育成は、まず「聞く」ことから92
- ・「マナーコンテスト」でロールプレイング演技を競う95
- ・「トークショートトレーニング」による会話能力の向上98
- ・人前で話しながらない学生に、いかにして話をさせるか103
- ・PCを利用しクイズで敬語を楽しく学ぶ106
- ・目的に応じてツールを活用し効果を上げる110
- ・生徒との人間関係を築くことが大切115

4 ワーク活性化のための仕掛け

- ・教師は場を盛り上げる演出家であり演技者である119
- ・「失敗しても恥ずかしくない」と感じさせる122
- ・学生が苦手なグループ討議をいかにして盛り上げるか125
- ・「教わる準備」を入念に行うと後のワークが盛り上がる128
- ・緊張感のある、集中できる空間を作る132
- ・学生のやる気を引き出すための工夫と労力を惜しまない135

5 授業外課題の与え方

- ・評価に直結させることで緊張感を持たせる140
- ・授業のフォローとして活用する145
- ・授業時間外を利用した課題の与え方148

6 評価

- ・教育評価の基準は「公平で」「正しく」「慈悲深く」155
- ・グループワークの評価ポイントは、チームワーク実践力160
- ・自己変容への想いを強める——自己評価と他者評価の相乗効果163
- ・目標への到達度を数値化する167

第3章 座談会●実践事例を読んで

- ワーク形式の授業をさらに発展させるために176
- 【資料】指導案197